校長室だより ８・９月

2025(令和7)年8月27日
大阪市立天王寺小学校
校 長　藤 原 和 彦

「やってみたい」「もっとやりたい」２学期に

まだまだ夏真っ盛りという感じの毎日が続いていますが、そんなことはお構いなしに2学期が始まりました。テレビなどで猛暑ぶりを去年以上に報道しているのを見るたびに、来年の夏休みはどうなるのだろうと、終わったばかりなのに早くも不安になってしまいます。かつてのように2学期の開始が9月になれば、少しはましになるかもしれませんが、大阪市では、学期の始まりと終わりは規則で決まっているので、校長が変更できるのはせいぜい１日の前倒しか後ろ倒しです。せめてものという思いで今年は始業式を１日遅らせましたが、この暑さでは、焼け石に水かもしれません。しかし、ご家庭や学園では、ようやく始まってくれたと思われている方も多いと思うので、これからは学校がしっかりバトンを引き継いで、毎日子どもたちがいきいきと過ごせるよう、力を注いでいきたいと思います。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、ご存じのとおり、2学期は１年で一番長い学期です。季節も夏の終わりから秋を経て冬の始まりまでとずいぶん変化します。その長い間には、学校行事や地域行事がたくさんあります。9月の天小フェスティバルや１１月の学習発表会のように学校全体で取り組むものもあれば、6年生の修学旅行や秋の遠足、社会見学に出前授業など、学年独自の取り組みもたくさんあります。また、お休みの日には、PTA や地域の行事で、かぶ天オータムに地域運動会、もちつき大会など楽しいイベントもたくさんあって、楽しみがいっぱいです。しかし、そんなイベントばかりが毎日続くわけではありません。何もない毎日が、圧倒的に多いのも2学期ならではなのです。

では、そんな普通の毎日をどうすれば子どもたちが楽しく過ごせるのでしょうか。実は、そのヒントを幼稚園の教育に見つけたような気がするのです。

１学期の終わりが近づいた7月のある日、幼小連携の一環で、近隣の大江幼稚園で行われた研究会にお招きいただきました。当日は、たくさん用意された遊びの場で、好きな遊びを子どもたちが選んで遊ぶという、研究保育をされていました。お店屋さんごっこや、お化け屋敷ごっこ、ダンスや体操のほか、色水や土粘土を使った遊びなど、多様な遊びの場が用意されている中を、3歳児から5歳児の園児全員が、自分のやりたい遊びをするのです。どの子も楽しそうで、いろいろな遊びを楽しむ子や、ずっと同じ場で遊び続けている子がいました。まさに夢中になって遊ぶ様子は、見ていて楽しかったです。また、年齢の違う子同士でも、同じ場でそれぞれが楽しく関わり合っている姿を見て、小学校で行うたて割り活動の素地がこうした所で育まれているのだなと思いました。そして、何よりも素晴らしいと思ったのは、この遊びの場を作るにあたって、幼稚園の先生方が、子どもの思いをしっかり受け止めて、

どのようにすれば実現できるのか、様々な支援をしながら一緒になって取り組んでいることでした。子どもたちの「やってみたい」「もっとこうしてみたい」という思いが高まることが、新たな発見や挑戦につながるのですね。そのための意図的な「しかけ」を先生方が何か月にもわたってコツコツと作られてきたことが、いただいた資料からよくわかりました。そして、遊びの中に、学びにつながる子どもの姿を見取っていくことが、就学前教育の目指すところの一つだと知り、とても良い勉強をさせていただきました。

もちろん、学校は幼稚園と違って、毎日学習をするのですから、遊びのようにやりたいことだけができるわけではありません。しかし、もし学習の中で「やってみたい」「もっとこうしてみたい」という思いを作ることができれば、そこに「主体性」が出てくるのは一緒だと思います。与えられたことをこなす毎日にするのか、それとも、自ら取り組む毎日にするのか、同じことをしてもきっと結果は大きく変わるでしょう。そのためにも子どもたちが「やってみたい」と思えるような「しかけ」を、小学校でももっと作っていくことが大切なんだなと思いました。

さて、これから子どもたちは、長いはずの2学期が、あっという間に終わってしまうほど、わくわくした毎日を過ごせるでしょうか。ぜひ、そうなることを願っています。

高価な玩具（おもちゃ）にしないために…

本校では、これまで1人1台の学習者用端末は、基本的に学校で使用し、必要がある場合のみ持ち帰らせるようにしていましたが、このたび、大阪市教育委員会の指示により、機種が更新される2学期から、原則として毎日持ち帰ることになりました。本校の機種更新は10月末の予定ですが、持ち帰りは先行して9月より実施します。また、新たに端末が導入される1年生も同様に実施します。充電は、ご家庭や学園でしていただくことになるため、使用の有無に関わらず基本的に毎日持ち帰る必要があります。

そこで、持ち帰りを行うにあたって、学校では次の対応を行います。一つは、端末を毎日持ち運ぶ必要があることから、子どもたちの体への負担を減らすために、宿題等で必要なものだけを持ち帰り、できるだけ教科書や教材を学校に置いておく、いわゆる「置き勉」を一層すすめていきます。

もう一つは、使い方についてです。端末は、学習道具ですから、学習以外には使わないというのが大原則です。しかし、学習と言いつつ本当は必要でないのに使ったり、中には遊びに使ったりする子が出てくるかもしれません。そこで、ご家庭や学園に端末を持ち帰ることに関するルールを作ります。でも、いくらルールを作ったとしても、結局は子どもたちがそれを理解し、自分自身をコントロールできるかにかかってきます。端末の持ち帰りを開始するにあたっては、学校だけでなく、ぜひご家庭や学園でも、その使い方について話し合っていただけたらと思っています。